

自転車競技



▲ゴールに向かってラストスパートをかける成年男子ロード・レースの先頭集団(選手中央・根本哲吏選手)

秋田わか杉国体 多くの町民に支えられ開催



美郷を舞台に熱戦を繰り広げる

秋田県で46年ぶりとなる第62回国民体育大会「秋田わか杉国体」が9月29日に開幕し、11日間にわたって県内各地で熱戦が繰り広げられました。

美郷町では自転車とバドミントンの2つの競技会を開催。各道府県を代表するアスリートが集い、夢を目指して試合に臨む選手の姿は、私たちに大きな感動を与えました。

そして秋田県勢は、初の天皇杯ならびに皇后杯を手にする大躍進を遂げ、県内に大きな喜びをもたらしました。

ロード・レース



美郷町と大仙市の一般道に設けられた特設コース上を、時速約40kmで疾走するロード・レースの選手たちの姿に、沿道で応援する人々は興奮を抑えきれず、大声で声援を送りました。高低差がある1周37・4kmの特設コースを成年で4周(総延長149・6km)走破する持久力と、刻々と変化する風向きなどを瞬時に読み取る判断力が求められるこのレース。

成年男子ロード・レースでは、先頭集団が3人ほぼ同着という接戦により、秋田県勢の根本哲吏選手(明治大学)が第3位入賞。その姿は翌日以降の大会日程での秋田県勢の活躍を予感させるものでした。



▲仏沢公園で観戦する皆さん

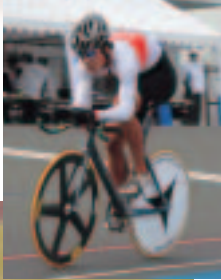


▲六郷東根・妻の神にて



▲成年男子スプリント
(写真左・佐々木吉徳選手)

成年男子1kmタイム
ムトライアル決勝
(石川雄太選手)



▲選手同士の駆け引きを間近で観戦



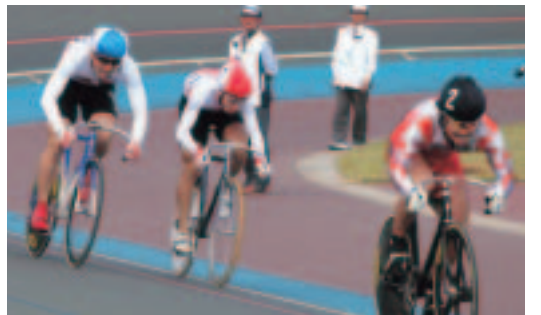
▲町内の小学生の皆さんが観戦

秋田県勢は成年男子ケイリン決勝で第3位入賞の仲村天晴選手(明治大学)、成年男子ポイント・レース決勝で第2位入賞を果たした守澤太志選手(同)が健闘。総合第5位に入賞しました。



成年男子ケイリン決勝
(白赤7番・仲村天晴選手)

▲少年男子4km速度競走
(白1番・田澤真明選手)



成年男子ポイント・レース決勝
(黄5番・守澤太志選手) ▼



トラック・レース

実況放送をするアナウンサーの声が会場となった六郷自転車競技場内に響き、競技用自転車の走る音が観客を無意識にレースに集中させたトラック・レースの各種目。

本町出身者として成年男子1kmタイムトライアルに石川雄太選手(順天堂大学)、少年男子4km速度競走に田澤真明選手(六郷高校)が出場し、観客の応援にも力が入りました。